

平成23年度

通常総会

平成23年5月16日（月）15:00～16:00

ル ブ ラ 王 山

総会次第

- I. 開会の辞
- II. 支部長挨拶
- III. 本部役員挨拶
- IV. 議 事
 1. 平成22年度事業報告
 2. 平成22年度決算報告
 3. 会計監査報告
 4. 平成23年度役員改選結果報告
 5. 平成23年度役員
 6. 平成23年度事業計画（案）
 7. 平成23年度予算（案）
 8. 表彰規程改定案
 9. その他
- V. 閉会の辞

（社）情報処理学会東海支部

事務局

〒460-0003

名古屋市中区錦2-17-21 NTTDATA伏見ビル内

TEL：(050)5556-2856 FAX：(052)204-4783

E-mail：shibu@ipsj-tokai.jp

1. 平成22年度事業報告

1.1 支部総会

平成22年5月17日(月) ホテルルブラ王山
参加者252名(委任状217名を含む)

1.2 評議員会

第1回	平成22年	5月17日(月)	ホテルルブラ王山	参加者31名
第2回	平成22年	12月7日(火)	東桜会館	参加者23名
第3回	平成23年	5月16日(月)	ホテルルブラ王山	

1.3 幹事会

第1回	平成22年	4月2日(金)	中電若竹クラブ	参加者14名
第2回	平成22年	6月14日(月)	中電若竹クラブ	参加者9名
第3回	平成22年	10月4日(月)	中電若竹クラブ	参加者9名
第4回	平成22年	11月17日(水)	中電若竹クラブ	参加者9名
第5回	平成23年	2月23日(水)	名古屋大学1B情報館南棟	参加者9名

1.4 電気関係学会東海支部連合大会 共催1回

1.4.1 大会概要

(1)期 日:平成22年8月30日(月)、31日(火) 2日間

(2)会 場:中部大学 春日井キャンパス

(3)特別講演 1件

(4)合同企画シンポジウム(電気・電子・情報) 1件

テーマ:「スマートグリッドの本質を探る—電力・通信・情報の融合領域形成をめざして—」
オーガナイザ 鵜飼裕之氏(名工大)・片山正昭氏(名大)・東道徹也氏(デンソー)
座長 鵜飼裕之氏(名工大)

1. 「スマートグリッドの本質を探る—電力・通信・情報の融合領域形成をめざして—」
鵜飼裕之氏(名工大)

2. 「スマートグリッドと情報通信技術」 片山正昭氏(名大)

3. 「IEC61850とスマートグリッド」 大谷哲夫氏(電中研)、天雨徹氏(中電)

4. 「新軽量システムの実現に向けた取組み」 松浦康雄氏(関電)

5. 「スマートグリッドにおけるセキュリティとプライバシー」 白石善明氏(名工大)

(5)シンポジウム 3件(情報処理学会企画1件)

テーマ:「ヒューマノイドロボットの情報技術—知能・感性のアプローチ—」

オーガナイザ・座長 加藤昇平氏(名工大)

1. 「ロボット聴覚ソフトウェアHARKとそのロボットへの適用」

高橋徹氏(京大)、中臺一博氏(HRI-JP)、奥乃博氏(京大)

2. 「ヒューマノイドロボット開発がもたらす[影]を読み解く」小松孝徳氏(信州大)

3. 「ロボットの感性インタラクションのための対人感情を考慮した感情制御モデル」

加藤昇平氏(名工大)、伊藤千加氏(名工大)

4. 「力学的情報処理を用いたヒューマノイドロボットの感性コミュニケーション」

橋本稔氏、李毅氏(信州大)

5. 「小型ヒューマノイドロボットシリーズと疑似感性」 富山健氏(千葉工大)

1.4.2 大会参加

・参加登録者数:合計1,103名(懇親会参加者を含む)

・特別講演者:1名

・シンポジウム:22名(オーガナイザー,座長,講演者)

・一般講演者:614名(申込617件:オーラル544件、ポスター73件)

- ・座長 : 82名
- ・一般参加者 : 511名
- ・懇親会 : 95名 (一般49名, 学生28名, 招待者18名)
- ・企業展示 : 6社
- ・広告・協賛企業数 : 43社
- ・特別講演参加者数 : 200名弱
- ・懇親会参加者数 : 95名
- ・大会参加者数 : 1,167名

1.4.3 その他

- ・主担当学会 : 電気学会東海支部

- ・情報処理学会東海支部からの委員

副 委 員 : 新田 恒雄 (豊橋技科大)
 委 員 : 岩堀 祐之 (中部大) 現地委員
 鈴木 秀智 (三重大)
 松原 茂樹 (名大)

事 務 局 : 入部百合絵 (豊橋技科大)
 加藤 昇平 (名工大)
 中谷 正美 (情報処理・東海支部)

プログラム編集委員 : 加藤 昇平 (名工大)
 松原 茂樹 (名大)
 東道 徹也 (デンソー)

- ・実行委員会

第1回 平成22年 4月2日 (金) 名古屋大学 1B電子情報館北棟 5階 電気系会議室

議題 : 開催日程・実施概要他

第2回 平成22年7月28日 (水) 中部大学 春日井キャンパス 7号館3F ファカリティーム

議題 : 大会プログラム

第3回 平成22年8月31日 (金) 中部大学 春日井キャンパス 7号館3F ファカリティーム

議題 : 大会運営

第4回 平成23年1月24日 (月) ルブラ王山

大会報告・奨励賞授与式・懇親会

- ・プログラム編集委員会

平成22年7月6日 (火) 名古屋大学 1B電子情報館北棟 5階 電気系会議室

- ・大会の特記事項及び主な反省事項

奨励賞等選考数 (奨励賞+B賞+IEEE学生奨励賞) 合計 : 38名

審査希望申請者数 合計 : 371名

情報処理学会受賞者 : 4名

連合大会奨励賞 関根康弘 ((株) クレステックソリューション)

〃 畠山弘樹 (大同大学)

IEEE学生奨励賞 水谷信泰 (名古屋工業大学)

永橋知行 (中部大学大学院)

(昨年度は選考数38名、申請者数561名、審査希望者数384名、情報処理学会6名受賞)

次年度以降の予定

平成23年度

会 場 校 : 三重大学

期 日 : 平成23年9月26日 (月), 27日 (火)

主 担 当 学 会 : 情報処理学会東海支部

平成24年度

会場校：豊橋技術科学大学（予定）

期日：未定

主担当学会：電子情報通信学会東海支部

1.5 講演会 6回（主催6回）

(1) 平成22年5月17日（月）特別講演

演題：「おしゃべりなロングテールの時代」

講師：熊坂 賢次氏（慶應義塾大学 環境情報学部 教授

財団法人ソフピアジャパン 理事長）

於：ルブラ王山 千成の間

参加者 46名

コメント：近年、Twitterのように、ネットワークを介して誰もが自由に意見を発信できるツールがたくさん開発されてきている。誰もが情報を発信できる環境では、マスメディアによって形成される客観的なリアリティとは異なり、みんなでコミュニケーションを介して合意することによって得られるリアリティが重要となってきている。このような時代背景のもと、マスメディアによってコントロールされていたこれまでの社会の在り方と比較し、ネットワークメディアを基盤とした社会作りの提言がなされた。本講演では、まず貧しさから豊かさへの社会条件の変化から、情報の捉え方やライフスタイルの変化が分析された。その上で、ネットワーク技術の特性が、社会の発展にどう影響しているかが説明された。

具体的には、現在の社会のあり様は、マイニングされたライフスタイルの集合であり、Twitterなどの「おしゃべりなロングテール」はライフスタイルを形成しているコミュニティであるにとらえることができる。そして、ライフスタイル間は小さな関係で接続されているとみなすことができる。そのような視点のもとでネットワークメディアを基盤とした社会作りをするためには、社会全体を小さな関係で接続されたライフスタイルの集合としてとらえることが重要だという主張がなされた。そして、ゆらぎをもった社会構造を念頭において、ネットワークメディアの活用方法を考えることが重要だという議論がなされた。

ネットワークメディアの進化と自分たちの生き方との関係を考えさせられた、興味深い講演内容であった。

(2) 平成22年9月21日（火）

演題：「脳情報の解読に基づく福祉機器制御システムの開発」

講師：長谷川 良平氏（（独）産業技術総合研究所

ヒューマンライフテクノロジー研究部門

ニューロテクノロジー研究グループ・グループ長）

於：名古屋大学 IB電子情報館北館 8階 081講義室

参加者 28名

コメント：長谷川先生は実験動物を対象とした意思決定の脳内機構に関する神経生理学的研究をされており、今回はその成果を活かした脳内意思解読に基づく福祉機器制御システムについて講演をしていただいた。講演ではニューロテクノロジーについての紹介から始まり、侵襲的脳内情報を用いた読み書き、脳内から情報を読み出す技術、脳内へ情報を書き込む技術についての説明があった。それらの技術を基盤としたアメリカでの事例研究を主として、侵襲型BMI、感覚型BMI、運動型BMI、認知形BMIについての紹介があり、これらのBMIを統合的に組み合わせたシステムについて解説された。一方で、書くことも話すこともできない運動障害の患者が他者に定型的な意思を伝えるのには認知型BMIが理想であることから、仮想意思決定関数による脳内意思推定を認知型BMIに組み込むシステムについて解説された。その応用として、書くことも話すこともできなく意思疎通が困難な人を支援するため、頭皮上からの脳波（非侵襲型）を使い意思決定を支援する既存技術について紹介された。次に、そのような意思決定支援

システムとして長谷川先生のグループが開発されているニューロコミュニケータについて説明された。具体的に、ニューロコミュニケータはメッセージの候補をユーザに提示し、ユーザが装着しているワイヤレスな超小型脳波計で脳波を計測し解析することで、ユーザがどのメッセージを選んだのかを解読する。脳波をリアルタイムに解析し、脳内意思を解読するため、脳波のP300から判別得点を算出し、LDA（局所密度近似）で判別分析する手法について解説された。次に、フジテレビの「めざましテレビ」でニューロコミュニケータが取り上げられた時の映像が再生された。最後に、実際のニューロコミュニケータの使い方とニューロコミュニケータの会について紹介された。「社会参加＝真の自立」を促進するコミュニケーションを支援するために実用化を考えたとき、システムの総合力の高さも必要であることを強調され、今後の課題について示された。意思疎通のための福祉機器制御システムとして、今後もその発展と実用化が期待される大変興味深い講演であった。

(3) 平成22年10月21日(木)

演題：「音声対話インターフェース・会話ロボットの最新技術」

講師：中野 幹生氏（(株)ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン
プリンシパル・リサーチャ）

於：名古屋大学 IB電子情報館中棟 014講義室 参加者 58名

コメント：講師の中野幹生氏は、2010年9月に日本で開催された「対話と談話に関する国際会議 (SIGDIAL-2010)」の実行委員長を務めるなど、日本における対話処理研究の第一人者である。本講演では、音声対話システムの現状と課題、ならびに、今後の方向性について豊富な研究事例をもとに分かりやすく解説いただいた。

講演ではまず、音声インターフェースが社会的に普及していない現状に関する問いかけから始まり、この原因は必ずしも音声認識技術の性能の不十分さのみに起因するものでないとする見解が提示された。音声対話システムは、一般に、音声認識、談話理解、対話管理、応答生成、音声合成など、複数技術の組み合わせであり、ユーザによる音声対話システムの振る舞いに対する不満の発生も単一の理由によるものではない。

音声対話システムに関する現状に対して、講演者らが開発を進めてきた解決法がいくつか紹介された。特に、「人と機械の対話モデル生成」「複数のエキスパートの統合によるマルチドメイン対話ロボット」「対話を通しての語彙の自動獲得」「語学教育を目的とした対話システム」などは基本的な原理の説明に加え、デモビデオによる解説が行われ、参加者は最新技術の一端に触れることができた。

対話処理研究における現状のホットトピックとして、「統計的対話制御」「マルチモーダル対話技術」「多人数会話処理」「インクリメンタルな対話理解」「Webからの対話知識獲得」「状況依存対話」が挙げられた。しかし、音声対話の分野では、研究テーマの重要性や将来性の大きさに比して研究者の数が少なすぎるということが問題視されており、新たな研究者や研究グループに参入が強く望まれる状況にあるという問題提起がなされた。

本講演では、本学の教員・学生以外にも、企業の研究者や技術者など学外からの参加者が多数あり、これは音声対話や会話ロボットに対する社会的な関心の強さや将来的な期待の大きさを示している。講演終了後には、参加者から多数の質問や意見があり、予定終了時間を超過せざるを得なかった。特に、音声対話が普及するための方法論や音声対話システムの評価方式については、フロアーからも多くの意見が飛び交い、有意義な議論が展開された。

(4) 平成22年11月12日(金)

演題：「擬似感性ーロボットの持つ感性ー」

講師：富山 健氏（千葉工業大学 未来ロボティクス学科 教授）

於：名古屋工業大学 2号館0232講義室（2号館C棟3階） 参加者 98名

コメント：千葉工業大学の富山先生は米国の大学で学位を取得し、米国の複数の大学にてロボティクス研究を精力的に行ってきた経歴の研究者である。冒頭では同氏の国際感覚豊かな視野と経験から、世界のロボティクス研究の動向について紹介と解説があり、なかでも感性ロボティクスと呼ぶ分野の重要性や同分野に対する我が国のアドバンテージについて討論をいただいた。時折「ロボットは感性を持ち得るか」「ロボットに感性は必要か」あるいは「そもそも感性とは何か」などの本質的な疑問を会場に投げかけ、聴講者との活発な発言交換を行いながら先生の考えを展開された。つづいて、富山先生の近年の研究テーマである介護者支援ロボットの研究事例を中心に、ロボットの持つ感性（擬似感性）について分かりやすく解説いただいた。まず、外界の様々な情報を感性的に同定・認識しその情報によって心的反応や感情に相当する数値（またはラベル）を計算する「狭義の擬似感性」、ならびに、外界および内部刺激を狭義の擬似感性に与えて得られた出力に基づいてロボットの振る舞いに味付けを与える「広義の擬似感性」の2つから構成される擬似感性の仕組みが紹介された。次に、擬似感性のシステムの実装例とその効果についての研究結果が示され、開発中の介護者支援ロボット実機の紹介がなされた。

富山先生から随時質疑を促す働きかけがあったこともあり、会場からは終始活発な質問と回答・討論が展開され、予定時間を大幅に超過しても予定の内容を講演いただくことができなかつたほどである。以上、非常に有意義で印象深い講演会となった。

(5) 平成22年12月7日(火)

演題：「Webコンテンツの推薦技術 ～最新動向と開発事例～」

講師：瀬川 修氏（中部電力株式会社 技術開発本部 エネルギー応用研究所 研究副主査）

於：東桜会館1階 第1会議室

参加者 36名

コメント：近年、ブログ・SNS・BBSといったCGM（Consumer Generated Media）の流行や、E-Commerceの普及に伴い、大量のWebコンテンツが蓄積され情報が爆発的に増加しており、個人の嗜好にマッチした情報検索手段が必要となってきた。

その実現方法であるコンテンツ推薦技術について、「推薦技術の概要」「国際会議に見る最新技術動向」について解説および「文体識別によるブログ推薦システム」のデモを実施いただいた。

「推薦技術の概要」では、コンテンツ推薦の主な手法として、コンテンツの内容によらず、ユーザの行動履歴およびコンテンツに対する評価値を利用する「協調フィルタリング」（Collaboration Filtering）と、従来の情報検索手法の延長である「コンテンツに基づくフィルタリング」（Content-based Filtering）について、そのメリット、デメリットについて紹介された。

また、関連する話題としてコンテンツ推薦技術を逆にとり、意図的にアイテムの評価値を上げたり下げたりするという「サクラ攻撃」（Shilling Attack）という手法について解説があり、大変興味深かった。

「国際会議に見る最新技術動向」では、最近の国際会議W3C（World Wide Web Conference）で脚光を浴びている話題の中でも、推薦アルゴリズム、システムに関する論文が多いことを挙げ、その応用事例や推薦技術の課題について紹介された。

「文体識別によるブログ推薦システム」の紹介では、ブログの中から、かたいコラム調とやわらかい日記調のコンテンツを、個人の嗜好に応じて推薦するシステムのデモの実演がされた。表層レベル（文末表現など）と形態素レベル（品詞N-gram）などを文書特徴量とし、数千のコンテンツで学習させ、ベイズ手法で新たなコンテンツをコラム調あるいは日記調に高い精度で判定するシステムを実現していた。

聴講者からの質問も多数あり、大変有意義な講演であった。

(6) 平成23年1月12日(水)

演題：「個別学習を支援するeラーニングシステムの発展に向けて」

講師：鶴岡 信治氏

(三重大学大学院地域イノベーション学研究所 教授,
三重大学大学院地域イノベーション学研究所長)

於 : 三重大学工学部15番教室

参加者 59名

コメント: 講師の鶴岡信治氏は、手書き文字認識、医用画像処理、文書画像認識など、画像処理およびパターン認識に関する研究に携われ、手書き文字認識の研究では、独自の細線化法を提案される等、この分野における日本の代表的研究者である。本講演では、eラーニングにおける映像処理について、現状と課題をわかりやすく解説していただいた。

講演では、学習内容の定着率と学習形態の関係から、個別学習の必要性を述べられ、eラーニングシステムの重要性を説かれた。つまり、ただ講義を受けるだけでは定着率が非常に低く、自ら実習や議論をすることが重要である。このような活動を支援するために、eラーニングシステムの活用が考えられるが、従来のeラーニングシステムではこれらの要求に柔軟に対応することは難しい。また、複雑化高度化する学習内容の定着のためには映像コンテンツの提供は不可欠である。現在、講義映像を配信している大学等があるが、その構成や撮影に専門的な技術が必要であり、コンテンツ作成のコストが非常に高い。さらに、映像内で必要な部分を選択的に視聴することは効率的な学習のために重要であるが、そのための技術がまだ未熟である。

鶴岡氏らは、これらの問題を解決するために、まず、学習における受講者の注視行動を基に、講師と板書内容を適切に切り換える方法を提案された。次に、板書内容を取得する装置を利用して、講師映像と板書内容を適切に提示する方法を提案された。さらに、映像コンテンツを内容によって分割し、板書内容をキーとして検索する方法を提案された。これらの技術を用いると、講義映像等を自動的に撮影、蓄積し、板書内容等によって映像を分割し、データベース化する、ということが低コストで実現でき、学習者の要求に応じて必要な部分を配信するシステムを少ない労力とコストで構築できるようになる。また、昨今のデジタル書籍などにも関連付けられ、その学習支援への利用可能性についても示された。

鶴岡氏は、公演中に参加者に意見を求める等の配慮をしていただいたので、学内の学生参加者もよく理解できた。また、講演後、外部からの参加者も含めて多くの質問や議論があり、非常に意義深い講演となった。

1.6 研究会他 8回 (協賛8回)

- (1) 平成22年6月16日 (水)
一般講演会「裸眼フルパララックス3Dディスプレイの研究開発」
(協賛、主催: 電子情報通信学会東海支部)
- (2) 平成22年9月10日 (金)
一般講演会「情報ネットワーク社会における法と倫理」
(協賛、主催: 電子情報通信学会東海支部)
- (3) 平成22年9月22日 (水)
第7回日本OR学会中部支部シンポジウム
「役に立つ最適化ツールとその応用」
(協賛、主催: 日本オペレーションズ・リサーチ学会中部支部)
- (4) 平成22年10月22日 (金)
「JaSST' 10 Tokai」
(協賛、主催: 特定非営利活動法人 ソフトウェアテスト技術振興協会 (ASTER)
JaSST' 10 Tokai 実行委員会)
- (5) 平成22年11月11日(木), 12日(金)
「フロンティア21エレクトロニクスショー2010」
(協賛、主催: 中部エレクトロニクス振興会)

(6)平成22年11月15日(月)

プロジェクトマネジメント学会 中部支部シンポジウム

- ・「中部地方における港湾の現状と課題」
- ・「日本企業の中国におけるIT 国際分業と中国国内IT 市場展開」

(協賛、主催：PM学会 中部支部)

(7)平成22年12月10日(金) - 11日(土)

「第8回情報学ワークショップ」

(協賛、主催：名古屋工業大学情報工学科)

(8)平成23年2月9日(水)

専門講習会「新成長産業／医療・介護・健康産業におけるICT利活用の可能性」

(協賛、主催：電子情報通信学会本部、同東海支部)

1.7 平成22年度学生研究発表会助成

複数の大学にまたがる場で研究発表会を開催し、研鑽を積むことを目指す学生を支援する

・実施概要

申請対象者：情報処理学会東海支部会員

助成対象発表会：平成22年3月1日～平成23年2月28日の間に開催される研究発表会

助成件数・金額：数件、総額10万円以内

申請期間：平成22年2月1日～平成23年2月28日

・助成：2件

(1)「第14回 東海地区音声関連研究室 修士論文中間発表会」

実施日：平成22年8月7日(土)

参加者数：156名 発表件数：52件

(2)「第8回情報学ワークショップ WiNF 2010」

実施日：平成22年12月10日(金) - 11日(土)

参加者数：120名 発表件数：71件

1.8 学生論文奨励賞

情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な成績をあげ、その将来を嘱望される学生に贈呈する

募集期間：平成23年1月15日(土)から平成23年3月15日(火)

選定委員会：平成23年4月21日(木) 若竹クラブ

表彰式：平成23年5月16日(月) 於：ルブラ王山

授賞者：池谷 友基 (いけがや ともき) (名工大)

一場 利幸 (いちば としゆき) (名大)

岡谷 賢 (おかや まさる) (名城大)

荻原 宏典 (おぎはら ひろのり) (愛県大)

木村 優志 (きむら まさし) (豊橋技科大)

櫻庭 セルソ 智 (さくらば せるそ さとし) (名大)

宮越 喜浩 (みやこし よしひろ) (名工大)

(五十音順)

2. 平成22年度決算報告

2.1 収入の部

(単位：円)

平成22年4月1日～平成23年3月31日

収入科目	平成22年度	
	予算額	決算額
交付金	2,920,000	2,920,000
(本部交付金)	2,420,000	2,420,000
(賛助金還元分)	500,000	500,000
利息	100	43
前年度繰越金	1,509,169	1,509,169
計	4,429,269	4,429,212

2.2 支出の部

支出科目	平成22年度	
	予算額	決算額
1. 事業費	1,750,000	1,358,590
年次総会費	490,000	451,801
講演会・研究会費	280,000	232,772
支部連合大会費	300,000	67,320
支部表彰費	195,000	212,127
支部助成金費	100,000	83,000
会議費	385,000	311,570
2. 事務費	1,950,000	1,971,062
通信費	50,000	47,880
消耗品費	20,000	49,657
郵便運搬費	10,000	6,085
雑費	5,000	2,640
事務委託費	1,865,000	1,864,800
3. 予備費	729,269	
4. その他(立替金)	0	1,000,000
5. 次年度繰越金		99,560
計	4,429,269	4,429,212

3. 会計監査報告

平成22年度収支決算書・平成22年度監査報告書……………添付資料 (P15)

4. 平成22年度支部役員改選結果報告

選挙期間：平成23年2月1日～平成23年3月2日

A：投票用紙発送数 1, 181件 (1月現在会費納入済の正会員および名誉会員)

B：投票数 266票

C：投票率 [B/A] 22.5%

D：開票結果

役 職	候補者氏名	得票数
支部長	川勝 務	248
副支部長	坂部 俊樹	251
幹 事	伊藤 孝行	245
〃	大野 宏司	240
〃	杉浦 宏幸	237

退任者 支部長 新田 恒雄 (豊橋技科大)
副支部長 川勝 務 (アイシン・インフォテックス)
幹 事 加藤 昇平 (名工大)
幹 事 東道 徹也 (デンソー)
幹 事 長屋 匡紀 (中電)

留任者 幹 事 入部百合絵 (豊橋技科大)
幹 事 鈴木 秀智 (三重大)
幹 事 松原 茂樹 (名大)

5. 平成23年度支部役員

(*新任、**再任、無印2年目)

役員	氏名	(所属)	
支部長	* 川勝 務	(アイシン・インフォテックス)	
副支部長	* 坂部 俊樹	(名古屋大学)	
幹事	* 伊藤 孝行	(名古屋工業大学)	
		入部百合絵	(豊橋技術科学大学)
	* 大野 宏司	(豊田中央研究所)	
	* 杉浦 宏幸	(中部電力)	
		鈴木 秀智	(三重大学)
		松原 茂樹	(名古屋大学)
監事	末永 康仁	(愛知工業大学)	
評議員	* 旭 健作	(名城大学)	
	* 石田 好輝	(豊橋技術科学大学)	
		伊藤 謙二	(トヨタ自動車)
		犬塚 信博	(名古屋工業大学)
	* 牛田 義孝	(富士通中部システムズ)	
	* 奥居 哲	(中部大学)	
	** 奥野 清一	(デンソー)	
	* 何 立風	(愛知県立大学)	
	* 桐山 伸也	(静岡大学)	
		先砥 修	(東邦ガス情報システム)
	* 鶴岡 信治	(三重大学)	
		長瀬 進治	(中部電力)
		沼田 宗敏	(中京大学)
	* 橋本 昌巳	(信州大学)	
	** 蜂巢 吉成	(南山大学)	
	* 花井 貴章	(OKI ソフトウェア)	
		林 誠	(日立オムロンターミナルソリューションズ)
		速水 悟	(岐阜大学)
		菱田 隆彰	(愛知工業大学)
	* 間瀬 健二	(名古屋大学)	
* 松浦 勇	(愛知県産業技術研究所)		
	水野 徳重	(メイテツコム)	
** 三代沢 正	(諏訪東京理科大学)		
** 吉澤 明芳	(萩原電気)		
支部長補佐	* 井上 健司	(アイシン精機)	

(五十音順)

6. 平成23年度事業計画 (案)

6.1 支部総会 平成23年5月16日(月) ルブラ王山

6.2 評議員会 3回

第1回 平成23年 5月16日(月) ルブラ王山

第2回 平成23年12月上旬 (予定)

第3回 平成24年 5月 (予定) (平成24年度支部総会開催日)

6.3 幹事会 5回

第1回 平成23年 4月 4日(月) 東桜会館

第2回 平成23年 6月14日(火) (予定)

第3回 平成23年10月上旬 (予定)

第4回 平成23年11月下旬 (予定)

第5回 平成24年 2月中旬 (予定)

6.4 支部大会 (電気関係学会東海支部連合大会として)

期 日：平成23年9月26日(月)、27日(火) 2日間

会 場：三重大学

主担当学会：情報処理学会東海支部

概 要：・特別講演 (1件)
・合同企画シンポジウム (1件)
・シンポジウム・チュートリアル(3件)
・一般講演 (公募)
・懇親会
・広告募集・企業展示募集
・奨励賞

主 催：電気学会東海支部、電子情報通信学会東海支部、情報処理学会東海支部、
照明学会東海支部、映像情報メディア学会東海支部、日本音響学会東海支部、
IEEE名古屋支部

共 催：電気設備学会中部支部

情報処理学会東海支部関係

- (1) 特別講演 演 題：「ITの未来を拓くサービスサイエンス」(仮題)
講 師：諏訪良武氏 (ワクコンサルティング株式会社)
- (2) 合同企画シンポジウム テーマ：「未定」
(3学会合同企画：電気学会・電子情報通信学会・情報処理学会)
- (3) 情報処理学会企画シンポジウム テーマ：未定

6.5 講演会 主催6回

(1)平成23年5月17日(月) 特別講演

演題：「つながる脳」

講師：藤井 直敬氏 (理化学研究所 脳科学総合研究センター
適応知性研究チーム チームリーダー)

於 : ルブラ王山

※上記を含め6回開催予定

6.6 研究会 随時

6.7 学生研究発表会助成

複数の大学にまたがる場で研究発表会を開催し、研鑽を積むことを目指す学生を支援する

・実施概要

申請対象者：情報処理学会東海支部会員

助成対象発表会：平成23年3月1日～平成24年2月29日の間に開催される研究発表会

助成件数・金額：数件、総額10万円以内

申請期間：平成23年3月1日～平成24年2月29日

6.8 学生論文奨励賞

情報処理学会東海支部に所属する学生会員（卒業後1年未満の会員も含む）で、情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な成績をあげ、その将来を嘱望される方に学生論文奨励賞を贈呈する

申請期間：平成24年1月中旬～3月中旬

選定委員会：平成24年4月中旬

表彰式：平成24年5月（通常総会）

6.9 幹事の業務分担について

業務別担当

- ・副支部長：坂部副支部長（支部長のサポート）
- ・総括担当：松原幹事・大野幹事（幹事の取りまとめ、会議資料（案）チェック）
- ・庶務担当：鈴木幹事（総務、議事録作成）
- ・会計担当：杉浦幹事（会計管理・事務局監督員）
- ・学生担当：伊藤幹事（学生会員増強）
- ・ホームページ担当：入部幹事（ホームページ掲載・イベント会員案内）

7. 平成23年度予算(案)

7.1 収入の部

(単位:円)

収入科目	平成22年度		平成23年度
	予算額	決算額	予算(案)
交付金	2,920,000	2,920,000	2,910,000
本部交付金	2,420,000	2,420,000	2,390,000
賛助金還元分	500,000	500,000	520,000
利息	100	43	100
前年度繰越金	1,509,169	1,509,169	99,560
その他(立替金)	0	0	1,000,000
計	4,429,269	4,429,212	4,009,660

7.2 支出の部

(単位:円)

支出科目	平成22年度		平成23年度
	予算額	決算額	予算(案)
1. 事業費	1,750,000	1,358,590	1,750,000
年次総会費	490,000	451,801	490,000
講演会・研究会費	280,000	232,772	280,000
支部連合大会費	300,000	67,320	300,000
支部表彰費	195,000	212,127	200,000
支部助成金費	100,000	83,000	100,000
会議費	385,000	311,570	380,000
2. 事務費	1,950,000	1,971,062	1,950,000
通信費	50,000	47,880	50,000
消耗品費	20,000	49,657	20,000
郵便運搬費	10,000	6,085	10,000
雑費	5,000	2,640	5,000
事務委託費	1,865,000	1,864,800	1,865,000
3. 予備費	729,269		309,660
4. その他(立替金)	0	1,000,000	
5. 次年度繰越金		99,560	
計	4,429,269	4,429,212	4,009,660

8. 支部表彰規程改定

改定趣旨：学生論文奨励賞の対象論文を明確化するために見直しをする。

情報処理学会東海支部表彰規程改定案……………添付資料 (P16)

第2章 学生論文奨励賞

(現行)

第8条

学生論文奨励賞を受ける者は、論文誌、または国際会議、情報処理学会の全国大会・研究会、電気関係学会東海支部連合大会（以下、学会講演という）のいずれかにおいて、自らの研究成果を発表した者で、次の各号に該当するものから選定する。

- ロ. 論文誌発表の場合は、当該論文に記名されている者であること。
また、学会講演発表の場合は、講演者として登録し、かつ講演を行った者であること。

(改定)

第8条

学生論文奨励賞を受ける者は、情報処理学会の論文誌、または情報処理学会の全国大会・研究会（以下、学会講演という）のいずれかにおいて、自らの研究成果を第 著者として発表した者で、次の各号に該当するものから選定する。

- ロ. 学会講演発表の場合は、講演者として登録し、かつ講演を行った者であること。

9. その他

情報処理学会東海支部

平成22年度収支決算書

平成22年4月1日～平成23年3月31日

(単位：円)

収入科目	決算額	支出科目	決算額
本部交付金	2,920,000	1. 事業費	1,358,590
支部交付金	2,420,000	年次総会費	451,801
賛助金還元	500,000	講演会・研究会費	232,772
前年度繰越金	1,509,169	支部連合大会費	67,320
利息	43	支部表彰費	212,127
		助成金費	83,000
		会議費	311,570
		記念行事	0
		2. 事務費	1,971,062
		通信費	47,880
		消耗品費	49,657
		郵便運搬費	6,085
		雑費	2,640
		事務委託費	1,864,800
		3. その他立替金	1,000,000
		4. 次年度繰越金	99,560
合計	4,429,212	合計	4,429,212

平成22年度監査報告書

平成23年4月14日

一般社団法人情報処理学会東海支部
支部長 新田 恒雄 殿

平成22年度 情報処理学会東海支部

監事 末永康仁 (印)

平成22年度収支決算書について監査の結果、その適正なことを認めます。

以上

現行	改定案
<p>平成 11. 1. 20 作成 平成 11. 4. 27 改訂 平成 13. 5. 8 改訂 平成 14. 5. 10 改訂 平成 21. 5. 11 改訂</p> <p style="text-align: center;">情報処理学会東海支部表彰規程</p> <p style="text-align: center;">第 1 章 総則</p> <p>第 1 条 支部規約第 3 条 (5) 項にもとづく関係事業として、業績ある者の表彰は、この規程により行う。</p> <p>第 2 条 表彰の種類は、次のとおりとする。</p> <p>1. 学生論文奨励賞</p> <p>2. その他、支部で特に認めた賞</p> <p>第 3 条 前条の各表彰の候補者または候補の調査選定には、賞ごとに選定委員会を設ける。各選定委員会には委員長をおく。選定委員長は原則として支部長が当る。また、選定委員会の委員は委員長が推薦し、支部評議員会で承認を受けるものとする。</p> <p>第 4 条 各表彰の受賞者は、前条の選定委員会委員長の報告に基づいて、情報処理学会東海支部幹事会の議決で決定する。</p> <p>第 5 条 各表彰の受賞者への賞状などの贈呈は、総会などとあわせて適当な機会にできるだけすみやかに行う。</p> <p>第 6 条 学生論文奨励賞は、支部に所属する学生会員（卒業後 1 年未満の会員を含む）で、情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な業績をあげ、その将来を嘱望される者に贈呈する。</p> <p>第 7 条 学生論文奨励賞の表彰は、年度毎に 1 回とし、その受賞者数は原則として 8 名以内とする。</p> <p>第 8 条 学生論文奨励賞を受ける者は、論文誌、または国際会議、情報処理学会の全国大会・研究會、電気関係学会東海支部連合大会（以下、学会講演という）のいずれかにおいて、自らの研究成果を発表した者で、次の各号に該当するものから選定する。</p>	<p>平成 11. 1. 20 作成 平成 11. 4. 27 改訂 平成 13. 5. 8 改訂 平成 14. 5. 10 改訂 平成 21. 5. 11 改訂</p> <p style="text-align: center;">情報処理学会東海支部表彰規程(改定案)</p> <p style="text-align: center;">第 1 章 総則</p> <p>第 1 条 支部規約第 3 条 (5) 項にもとづく関係事業として、業績ある者の表彰は、この規程により行う。</p> <p>第 2 条 表彰の種類は、次のとおりとする。</p> <p>1. 学生論文奨励賞</p> <p>2. その他、支部で特に認めた賞</p> <p>第 3 条 前条の各表彰の候補者または候補の調査選定には、賞ごとに選定委員会を設ける。各選定委員会には委員長をおく。選定委員長は原則として支部長が当る。また、選定委員会の委員は委員長が推薦し、支部評議員会で承認を受けるものとする。</p> <p>第 4 条 各表彰の受賞者は、前条の選定委員会委員長の報告に基づいて、情報処理学会東海支部幹事会の議決で決定する。</p> <p>第 5 条 各表彰の受賞者への賞状などの贈呈は、総会などとあわせて適当な機会にできるだけすみやかに行う。</p> <p>第 6 条 学生論文奨励賞は、支部に所属する学生会員（卒業後 1 年未満の会員を含む）で、情報処理に関する学問や技術の分野において優秀な業績をあげ、その将来を嘱望される者に贈呈する。</p> <p>第 7 条 学生論文奨励賞の表彰は、年度毎に 1 回とし、その受賞者数は原則として 8 名以内とする。</p> <p>第 8 条 学生論文奨励賞を受ける者は、論文誌、または情報処理学会の全国大会・研究會（以下、学会講演という）のいずれかにおいて、自らの研究成果を発表した者で、次の各号に該当するものから選定する。</p>

現行	改定案
<p>イ、論文誌発表の場合は、掲載日時または採録決定日時が当該年度内であること。また、学会講演発表の場合は、講演日時が当該年度内であること。</p> <p>ロ、論文誌発表の場合は、当該論文に記載されている者であること。また、学会講演発表の場合は、講演者として登録し、かつ講演を行った者であること。</p> <p>ハ、学生論文奨励賞を申請した時点で、支部所属の会員であるか、または会員として入会を申請中であること。</p> <p>ニ、過去に学生論文奨励賞を受賞していない者であること。</p> <p>ホ、申請時において満30歳以下であること。</p> <p>イ、学生論文奨励賞申請書</p> <p>ロ、論文誌または講演予稿集の該当ページの写し。ただし、採録予定の場合は、原稿の写し、および採録通知</p> <p>ハ、発表内容梗概</p> <p>第10条 学生論文奨励賞は、賞状および副賞とする。なお副賞は図書カード1万円分とする。</p> <p>第11条 この規程に定めるもののほか、表彰規程の運用に関する必要な事項は別に定める。</p> <p>第12条 本規程の改廃は、支部総会の議決により行う。</p>	<p>イ、論文誌発表の場合は、掲載日時または採録決定日時が当該年度内であること。また、学会講演発表の場合は、講演日時が当該年度内であること。</p> <p>ロ、学会講演発表の場合は、講演者として登録し、かつ講演を行った者であること。</p> <p>ハ、学生論文奨励賞を申請した時点で、支部所属の会員であるか、または会員として入会を申請中であること。</p> <p>ニ、過去に学生論文奨励賞を受賞していない者であること。</p> <p>ホ、申請時において満30歳以下であること。</p> <p>第9条 学生論文奨励賞の申請に際しては次の各項に掲げるものを選定委員会に提出する。</p> <p>イ、学生論文奨励賞申請書</p> <p>ロ、論文誌または講演予稿集の該当ページの写し。ただし、採録予定の場合は、原稿の写し、および採録通知</p> <p>ハ、発表内容梗概</p> <p>第10条 学生論文奨励賞は、賞状および副賞とする。なお副賞は図書カード1万円分とする。</p> <p>第11条 この規程に定めるもののほか、表彰規程の運用に関する必要な事項は別に定める。</p> <p>第12条 本規程の改廃は、支部総会の議決により行う。</p>